

学 校 名	山形市立高瀬小学校 山形市大字下東山 1 2 6 4 番地 TEL 6 8 6 - 2 2 6 4 FAX 6 8 6 - 4 1 8 4	校 長	佐藤 淳一
		研究主任	有川 正美
研 究 主 題	いきいきと学び合う子どもをめざして （３年次） 人・自然・文化との関わりを通して		
研 究 の 概 要	＜課題設定の理由＞ 本校では、平成 13 年度からの 2 年間、低学年では生活科を中心に「各教科」、中高学年では「総合的な学習」を窓口として、子どもたちが体験の中から得た感動や発見をもとに課題を見つけ、自ら考え、解決する力（学ぶ力）をつけていきたいという課題のもとに研究を進めてきた。自ら課題を見つけ主体的に解決する力や、体験したことや学習したことを豊かに表現する力は、今の子どもたちに求められている「生きる力」を育む上で大切な要素であり、本校教育目標の具現化にもつながるものであると考える。特に昨年度低学年では、表現力に焦点をあて、生活科で育てた力をさらに他教科へ広げようという実践も行い、成果をあげている。 そこで、本年度は、本研究の 3 年目、まとめの年として、低学年では他教科との関連を考えながら「生活科」、中高学年では「総合的な学習」の時間を窓口として、高瀬の豊かな自然や文化、人々との関わりや、様々な体験活動を通して「学ぶ力」を育て、本校の総合的な学習の時間「高瀬っ子プラン」や「生活科プラン」を完成したいと考える。また、本年度新設された特殊学級では、「生活単元学習」を窓口として研究を進めていきたい。 ＜研究の目標＞ （１）様々なことに興味をもち、進んで学ぶ子どもを育てる。 （２）いきいきと主体的に学び合う子どもを育てる。 （３）気づきや思いを伝えるための、表現力を育てる。 ＜研究の仮説＞ （１）豊かな体験活動を通して子どもたちに感動を味わわせていけば、多様な気づきを生み出すことができるだろう。 （生活科・総合 A・生単） （２）子どもの願いや興味関心を大切に学習の流れを工夫していけば、いきいきと、より主体的に活動を進めることができるだろう。 （生活科・総合 B・C・生単） （３）交流や学び合いの場を工夫していけば、気づきや思いを伝えるための表現力を育てることができるだろう。 （生活科・総合 B・C・生単）		

研究の概要

研究の内容

研究教科

特殊学級・・・生活単元学習・総合的な学習

低学年・・・生活科（教科からの発展・教科との関連・合科も考える。）

中高学年・・・総合的な学習

研究の手だて

① 広く、豊かな**体験活動を設定**していく。（総合A）

② 4つの学びのステージと4つの支援の視点から**単元構成を工夫**する。

ふれる・・・様々な人、社会、自然に出会い、かかわる。

つかむ・・・自分の思いや願いを持ち、課題を明確にする。

むかう・・・一人一人が多様な活動をしながらか、課題を解決する。

いかす・・・学んだことを自分の生活に生かしていく。

→学習の中から新たな課題を見つけ、次の学習へとつなげていく。

③ 交流や学び合いを深めるために学んだことを**表現する（発信）方法**について工夫する。

④ 生活科・総合的な学習の**年間計画を作成**し、各単元ごとにねらい（願う子どもの姿）を明確にして**評価**する。

研究の方法

① 全クラスで授業研究を行う。

② 講師を招いて研修を深める。

③ 研究集録を作成し、次年度に生かす。

研究の組織

研究全体会

研究推進委員会

授業研究部（総合B・C）

少人数支援部（総合B・C）

体験活動部（総合A）

＊全職員が各部に所属し、全職員で研究を進めていく。

研究の計画

月	内 容	月	内 容
4	研究方針・研究計画・全体会	10	授業研究（4年，5年）
5	全体会 活導案の形式・各学年部の子ども像 総合学習年間計画完成 ・授業研計画	11	授業研究（6年，1・2年）
		12	授業研究（特殊） 学年部のまとめ
6	授業研究会（3年）	1	研究集録のまとめ
7		2	研究の反省と次年度の方向
8	研修会	3	研究集録発刊
9			